

# 背景：高まる学修成果の可視化と教育の質保証の必要性

## 1. 政策要請

学修者本位の教育への転換のため、在学時の教育成果を卒業後以降の職業や社会生活を通じて、卒業生がどの程度実感しているか学修成果を把握する必要性が生じている。各短期大学は、卒業生や雇用に先から学修改善等に必要情報収集し、学修改善活動につなげる取り組みが求められている。

## 2. 卒業生調査の実態と課題

↓卒業生調査に関する聞き取り調査を実施。短大における教育成果を就業状況と兼ね合せて検証し、学修等へ反映させた意向あり。ただし、卒業生調査を行っていないも回答数(率)が望めず、評価改善につなげる情報の収集として不十分な現状。在学生に対する調査と違って労力がかかるなど課題(宮里・黄 2018)

↓卒業生調査に関する聞き取り調査を実施。短大における教育成果を就業状況と兼ね合せて検証し、学修等へ反映させた意向あり。ただし、卒業生調査を行っていないも回答数(率)が望めず、評価改善につなげる情報の収集として不十分な現状。在学生に対する調査と違って労力がかかるなど課題(宮里・黄 2018)

## 3. 本研究の目的と発表概要

◎ 自己点検・自己評価に活用できる全国規模の共通設問による卒業生調査の開発と試行調査の実施、その結果(在学生調査との結果の相違)

↓ 個別大学の調査ではデータや情報に限りがあるので、同じ設問による卒業生調査を行うことで、全国比較や専門分野比較、在学生調査との比較を可能にし、参加短大の評価改善に活用できる範囲を広げる  
↓ これまでの研究成果をもとに調査票を作成し、試行調査を実施  
◎ 人手や費用をかけずに継続的に卒業生調査を実施できる方法の検討

# 方法：卒業生調査(試行版)の開発と実施

この調査は、短期大学で教育を受けた卒業生に対して、その満足度や学修成果、短期大学への要望などを尋ね、教育成果の可視化に関する情報を得るために実施した。調査対象は、調査協力校(表1)の卒業生のうち①調査実施時点で卒業後10年以内、②卒業時点で就職先や進路先が決まっていた者とした。調査の回答はWEB調査を用い、調査協力校から卒業生に調査依頼文書の送付を依頼し、回答者は文書に記載されたQRコードを読み取り、ウェブページにアクセスし回答した。なお、調査は、2019年7月〜8月に行った。これらの結果の分析とともに、調査協力校の関係者にインタビューを実施した。

表1：卒業生調査(試行版)の調査項目及び回答者数概要

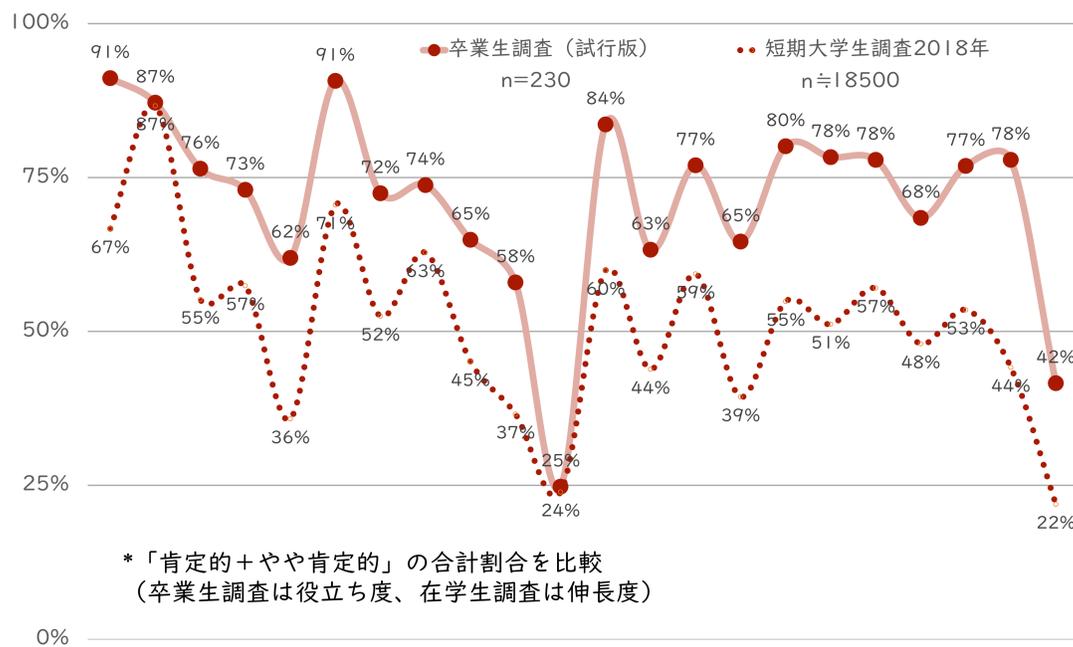
調査項目	調査依頼数	有効回答数	回答率
Q1 回答者ID			
Q2 性別			
Q3 最終学歴			
Q4 短大に対する総合評価	A短期大学	200	38 19.0%
Q5 短大教育の学修成果	B短期大学	827	111 13.4%
Q6 短大推奨度	C短期大学	196	13 6.6%
Q7 卒業直後のキャリア	D短期大学	200	15 7.5%
Q8 卒業直業の就職先	E短期大学	152	53 34.9%
Q9 卒業直業の雇用形態	全体	1575	230 14.6%
Q10 現在のキャリア			
Q11 現在の就職先			
Q12 現在の雇用形態			
Q13 在学時に取得した免許資格の活用			
Q14 卒業後の短大との関わり			
Q15 短大への要望			
Q16 短大で学んでよかったこと/学びたかったこと(自由記述)			
Q17 短大の後輩へのアドバイス(自由記述)			
Q18 試行調査の回答のしやすさ			
Q19 試行調査への意見(自由記述)			

## 共通設問による短期大学卒業生調査の実施の可能性

—試行調査実施内容と結果について—

- 堺 完(大分大学) ○ 宮里 翔大(桜美林大学・院)
- 黄 海玉(短期大学基準協会) ○ 山崎 慎一(桜美林大学)

2019/11/30 大学教育学会 課題研究集会 エリザベト音楽大学(広島県広島市中区幟町4-15)



\*「肯定的+やや肯定的」の合計割合を比較(卒業生調査は役立ち度、在学生調査は伸長度)

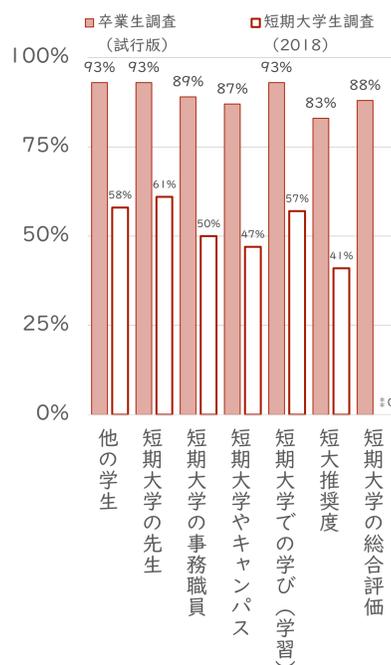


図1：短大総合評価と推奨度の比較

# 結果：卒業生調査(試行版)の結果及び短期大学生調査2018(在学生調査)の比較

\*「短大に対する総合評価」と「短大推奨度」に関して、「肯定的+やや肯定的」の合計割合  
\*短期大学の総合評価は、卒業生調査の独自質問

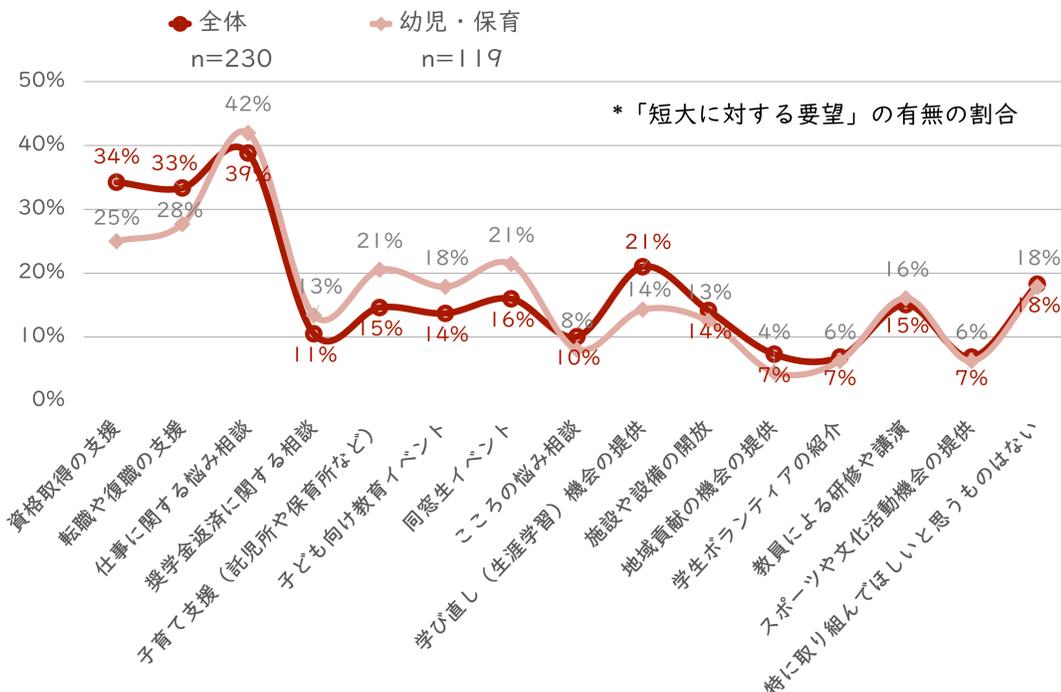


図3：卒業生調査(試行版)における全体と幼児・保育分野の比較

※本研究は、JSPS基盤研究(C) [19K02866]の助成を受けています。

## 考察：

今回回答した卒業生に対するインタビュー等を通じ、調査に表れていない部分を検討する必要がある。

低い回答率。また、母校に良い印象を持っていない卒業生の回答に偏っている可能性。ただし、自由記述には厳しいコメントも。

◎ 卒業後の支援に対する一定のニーズがある。インタビュー調査からも卒業生がみられることを確認した

◎ 自身の学修成果についても肯定的に捉え、一部の項目では役立ち度と在学時の伸長度に差がみられた

◎ 短期大学卒業生の多くは、短期大学における自身の経験を肯定的に見ている